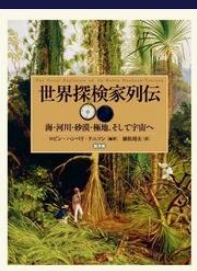


SHINOZAKI QUEST

4月は新年度を迎え、入学や入社など新しい世界に踏み出す節目の月です。新しい世界といえば「冒険」！ということで、その「冒険」をテーマに本を集めました。勇者たちよ、いざ冒険の世界へ！

▶ 冒険の前に探検家の事績を調べる
自ら冒険して探検記を書く



「世界探検家列伝」
ロビン・ハンベリ-
テニソン編著
悠書館
290ハ
篠崎ほか所蔵



アメリカ大陸を発見したコロンブスや、人類初の宇宙旅行を成し遂げたガガーリンなど、地球に関する知の蓄積に貢献した探検家たちを紹介しています。並外れた好奇心と強い意志で、それぞれの時代・社会で「世界の果て」と思われていた場所を目指して探検した彼らの事績を読んで、いるうちに、冒険心に駆られ探検に出たくなりました。

▶ 一人で大型客船に乗りイギリスを目指す
ボートに乗るために公園を目指す



「名もなき人たちの
テーブル」
マイケル・オンダーチュ著
作品社
933オ
篠崎ほか所蔵



11歳の少年が、たった一人で大型客船に乗って母の待つイギリスへと向かう。船内で知り合った個性的な人々との関わりや謎めいた事件、大嵐など、この船旅は少年にとって、胸ときめかせる冒険の日々となった。しかし、それは人生を大きく変えることにもなったのである……。旅は冒険であると同時に、人生の大きな一部なのだ。

▶ 照美、テルミィになって空を飛ぶ
さっさと帰ってご飯を食べる



「裏庭」
梨木 香歩著
新潮文庫
BFナ
篠崎ほか所蔵



少女・照美はある出来事がきっかけで古い洋館の「裏庭」の世界に入り込みます。そこでバラバラになった一つ目の竜の骨を集める旅をしながら、現実を抱える寂しさと、トコトン向き合うことになります。「傷を、大事に育んでいくことじゃ。そこからしか自分というものは生まれはせんぞ」。旅で出会うおば婆の言葉が胸にささりました。

▶ いつもと同じ道を行く
▶ たまには違った道を行ってみる



「花世の冒険」
『かくれんぼ』所収
平岩 弓枝著
文春文庫
BFヒ
篠崎ほか所蔵



本所・麻生家の宗太郎と七重夫婦に待望の長男が誕生。しかし今まで一人っ子だった長女の花世は、周りにあまり構ってもらえなくなりちょっと「おかんむり」。そこで、少し遠いが一人でも行った事のある「かわせみ」に「いつもとは違った道で」行く事を企てるが、やっぱり途中で道に迷ってしまい……。時代小説版「はじめてのおつかい」みたいで、おきゃんな花世の魅力たっぷり！

▶ 先生に疑問を聞きに行く
▶ 疑問を調べに図書館に行く

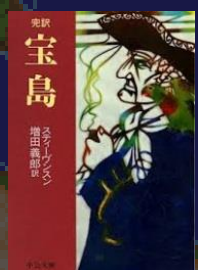


「ふしぎな図書館」
村上 春樹文
佐々木 マキ絵
講談社
Fム
篠崎ほか所蔵



読みたい本があり図書館へ行った主人公のぼく。本を見つけてくれた司書の老人に案内されて一緒に閲覧室に向かうと、なんとそこは牢屋でした。老人の目的は!? そしてぼくは無事に図書館から脱出できるのか!? 可愛い挿絵とは裏腹に少し暗くて怖い印象を受ける内容ですが、その差もこの作品の魅力の一つとなっています。

▶ いざ、宝の島へGO!
クラーケンが怖いので行かない



「宝島」
スティーヴンソン著
中公文庫
B933ス
篠崎ほか所蔵



“冒険”と聞いて浮かんでくるのは「宝島」。やはり海と海賊のイメージが強いです。多くの方がご存知だとは思いますが、主人公の少年が母親を手伝って商っている宿屋に一人の老船乗りが泊まったことから彼の冒険が始まります。主に少年の目線で紡がれてゆく物語はハラハラ、ドキドキの連続で、いつのまにか物語の世界に引きこまれてしまいます。

そのプロデュースに魅せられて♪

冒険に出かけるのならば、アルプスに登ってみるのはいかがでしょうか。

今回ご紹介する曲はヨーロッパのアルプス山脈に登り、また帰ってくる道程が壮大なオーケストラの演奏によって表現されています。

CD「アルプス交響曲」

（『R. シュトラウス：アルプス交響曲 | ドン・ファン』所収）
R. シュトラウス C1シ05077 篠崎ほか所蔵

作曲者シュトラウスが少年の頃、アルプスに登った時の体験が基になっているといわれているこの曲には、それぞれの場面にタイトルがついているので、その情景を思い浮かべながら聴けば、家にいながらにしてアルプスに登った気分になれます。

▶ 周りに助けを求めに行く
▶ 生き返りの術を使う



「送り人の娘」
廣嶋 玲子著
角川書店
JFヒ
篠崎ほか所蔵



現世と黄泉の国の橋渡しとして、魂をあの世へと運ぶ「送り人」。真由良は、後継人として伊予を送り人とすべく育て始める。しかしある日、伊予は死んだ狼に「蘇り」をおこなってしまう。その力が永遠の命を願う王の知るところとなり、追われる身となる。そんな彼女を救ったのは、命を助けた狼の闇真だった。日本神話を織り交ぜた、スピード感のある展開で一氣に読めます。

▶ マカオのカジノで遊ぶ
▶ マカオで探検をする



「密命」
高橋 義夫著
毎日新聞社
Fタ
篠崎ほか所蔵



剣豪・小笠原玄信斎は、「関ヶ原の戦い」に敗れた西軍の残党が、南洋の島に集結して、徳川幕府打倒を計画している」という噂の真相を確かめるべく、家康の命により朱印船で南洋に向かった。異国での探索に困難を極める中、彼は襲撃してくる中国武術の達人たちに対し奥山流の剣術で立ち向かう。私はそんな玄信斎のタフさに惚れました。ちなみにこの本を読むと、当時の複雑なアジア情勢が分かります。

▶ せんこうかいし
潜航開始
せんかい
深海ザメが体当たりしてきて中止



「ぼくは「しんかい6500」のパイロット」
吉梅 剛著
こぶし書房
558ヨ
篠崎ほか所蔵
「微生物ハンター、深海に行く」
高井 研著
イースト・プレス
663タ
篠崎ほか所蔵



「地球最後のフロンティア」と言われる深海。暗黒の海底では黒い熱水が噴き出し、周囲には生物・微生物が多数生息。その多くは未だ謎ばかり……。とくれば、否が応にも好奇心をくすぐられます。海底調査のための潜水船「しんかい6500」。小さな船で謎に満ちた世界に乗り出すパイロットや研究者の熱い思いも伝わってきます。

▶ タランチュラを食べにカンボジアへ
お腹が弱いので、近くのうどん屋へ



「世界で一番恐ろしい食べ物」
ニール・セッチ
フィールド著
エクスタレッジ
383.8セ
篠崎ほか所蔵



ゲンゴロウ、ヤゴの串刺し、ゴカイ、タランチュラ、ユムシ、ウシの顔、カエルの素揚げ、乾燥トカゲ。これらは、信じがたいことに食べ物です。著者は世界を旅しながら、その土地の珍しい食べ物をカメラに収め、一冊の写真集としてまとめたとのことですが……。レシピもあるので、食の冒険をしたい方は、ぜひ、どうぞ。